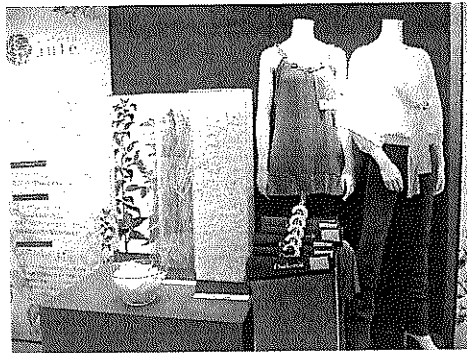


オーミケンシ

草本レーヨンを発表

アヤベと連携で落ち綿混紡も



まったく新しい草本レーヨンが誕生 (写真は「リテラジュート」)

オーミケンシは25日、繊維として伸びていく。草など草本系原料によるさらには地球環境の再生に力点を置いて「リテラ」を開発した」と話す。26日からの展示会で披露する。龍寶惟男社長は「レーヨンは環境適合型」

繊維として伸びていく。草本系原料は一年草が多く、短期間で再生が可能だ。また、二酸化炭素の吸収量も多く、繊維化することで長期固定化できる。綿花などに比べて農業や肥料の使用量が少ないことも利点だ。

今回のリテラ開発に関して奥村忠司専務は世界的な繊維消費量は増加しているなか、木材原料だけに依存することは森林資源保護の観点から問題がある。草本系原料は成長サイクルが短いので、これも活用することで環境に貢献できるのではないかと考えた」と話す。また、同社がレーヨン基軸に事業展開するなかで原料面の

技術的な横軸を広げるための一つの方向性としてリテラがあると指摘する。リテラケナフは7月からリテラジュート、リテラバンブー、リテラコットン、リテラは、ケナフ、シユート、バンブー、コットンリンターの4原料による総合ブランドとして展開する。龍寶惟男社長は「レーヨンは環境適合型」

今回のリテラ開発に関して奥村忠司専務は世界的な繊維消費量は増加しているなか、木材原料だけに依存することは森林資源保護の観点から問題がある。草本系原料は成長サイクルが短いので、これも活用することで環境に貢献できるのではないかと考えた」と話す。また、同社がレーヨン基軸に事業展開するなかで原料面の

「リバイバルコットン」の混紡素材も用意した。オーミケンシでは肌着からアウターまで衣料用途全般に提案し、3年後には売上高5億円程度にまでしたい考えた。

このほか、使用済み牛乳パックなど有機廃材をパルプ化し、レーヨン原料に再利用する研究開発もリテラの一環として行う。量販店などと連携

し、廃棄物の回収と有効活用のシステム作りを目指す考えだ。

リテラは、26日からの同社総合展示会で披露する。大阪展は26日から28日まで本町オーミビル

(大阪市中央区)で、東大阪は6月3日から4日までミカレディ本社(東大阪中央区)で開催する。展示会では、リテラのほか、キシリトール練り込「チ」など機能レーヨンを多数提案する。